

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和元年 7 月 23 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	横山実玖歩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
熊本県熊本市	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
日本霊長類学会	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
令和元年 7 月 12 日 ~ 令和元年 7 月 14 日 (3 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
<p>5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)</p> <p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の目的は日本霊長類学会への参加であった。自由集会では、熊本県の高校生が環境や野生動物の保護について議論する「熊本高校生環境会議 2019」が印象に残った。高校生ならではの革新的な意見や、柔軟な考え方に触れることができた。外来生物や、一般的に害獣と呼ばれる種について考える時、当然のように在来種や人間の生活を脅かすものとして駆除を考える場合が多いが、人間の都合で運ばれてきてその場で生きているだけだから殺さない方法を探るべきだ、という純粋な高校生の意見に触れ新鮮な気持ちになった。口頭発表やポスター発表では、認知の分野について他大学の発表が少なく、既知のものが多かったのが少々残念であった。しかし心の理論の検証について、1つの論文の発表に対して反証が出て、さらにその反証をおこなって、という議論のプロセスを追った発表があり勉強になった。そして次は自分も発表したい、という思いを強く持った。発表できる段階まで自分の研究を進めて初めて他の人に研究に対して意見を持ち、ディスカッションをおこなうことができるのではないかと考えた。最終日の公開シンポジウム「ヒトの来し方行く末を考える」では、ヒトの進化、近縁種であるチンパンジーやゴリラの世界、そして現在の社会の問題など幅広いテーマに触れ、霊長類学が人類の過去と現在、未来を描くことのできる学問であるという広がりを感じた。すぐには難しいかもしれないが、ヒトはどう生きるべきか、というテーマと自分の研究を繋げられたら、研究は大きな意味を持つものになるだろうと思った。3日間で知識を得たと同時に、研究に対するモチベーションを上げることができた貴重な機会となった。</p> <p>また初日の午前中に、熊本市動植物園を訪れた。震災を乗り越えて昨年12月に完全開園したそうで、ライオンやユキヒョウなどのエリアでその被害と復興の足跡を目にした。チンパンジーは広い放飼場で飼育されており、彼らが食物を探しながら採食の様子を観察することができた。足を切断したチンパンジーがおり、腕だけで器用にロープを伝って登っていた。また屋外に出る際に、通路で他のチンパンジーがその個体を待っているような姿を見ることができ彼らの社会性を垣間見た気がした。各地に行く際には動物園等に積極的に足を運び、動物や彼らの飼育、展示について勉強いきたい。</p>	
	<p>←公開シンポジウムの様子</p> <p>→熊本市動植物園のチンパンジーの屋外放飼場</p> 
6. その他 (特記事項など)	
本学会へはPWSの支援を受けて参加しました。御礼申し上げます。	